

平成24年度 道徳教育（児童生徒指導）に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

（1）問題行動等調査から

- ・友人関係がうまく築けないことから、集団に適応できなくなる生徒がいる。
- ・問題行動の背景が、家庭生活や大人に対する不満、不安である場合が多い。

（2）学校評価や学習と生活についてのアンケート結果から

- ・規範意識や学校生活に対する肯定的評価が高まっている。
- ・学習や生活などに対する意欲が高まってきている。
- ・友人を大切にする反面、親や教師など大人との関係が未成熟な生徒が多い。
- ・TVやゲーム、携帯をいじる時間が多い一方、家庭学習の時間が少なく学習の定着が図れない。

（3）学校生活の状況から

- ・明るく元気で、あいさつを交し合える。
- ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動への意欲が高い。
- ・目上の人へのけじめのある行動があまり取れない。

2 今年度の重点目標（学校園共通は○）

規範意識と自尊感情を育てる生徒指導の推進

○① 善悪の判断や集団生活のルール・マナーに関する指導の徹底

② 組織的・系統的指導と評価方法の定着

○③ 自分を、人を、地域を大切にする活動の積極的展開

【地域学校園教育ビジョン】 地域に愛される旭っ子

【旭中学校年間スローガン】 オンリー ONE!!（互いに認め合い、磨き合おう）

3 今年度の取組（学校園関連は○、『スタンダード』関連は☆、①～③は重点目標との関連）

○☆具体的に、振り返りをしながら、達成感を得られるような言語活動の充実

（スタンダード・ダイアリー、ワークシート「わたしの目標」等を活用した自己評価と改善の指導）

○☆ 小学校との情報の共有や指導の一貫性の重視

○☆ 時間を守る、5分前行動の徹底－①

- ・生徒心得にのっとった服装・身だしなみの徹底－①

○☆ 自らあいさつを交し合うことの習慣化－①

☆ 情報モラルと携帯端末の利用に関する指導の徹底－①

- ・生徒の自己評価のPDCAサイクル化と、生徒の生活・行動に関する評価の定着－②

- ・指導段階ごとの教師の役割分担と保護者・地域・関係機関との連携－②

○☆ 道徳や学級・学年活動の充実－③

○☆ いじめを許さない環境の整備といじめの早期発見、解決－③

○☆ 福祉体験や地域行事、ボランティア活動への積極的参加－③